魚津市テニス協会
設立30周年記念誌

2007年3月発行

「協会設立３０周年を迎えて」

魚津市テニス協会
会 長　小杉　紘平

早いもので私共魚津市テニス協会も設立 30 周年を迎えました。

30 数年前に、魚津市及び近隣の方と魚津東部中学校のコートでテニスを始め出し、誰言うとも無く「協会でも創ろうや」と言う話がまとまり、初代会長を濱多氏にお願いしたのが 30 年前。当時はテニスコートと言えば東部中学校の元はバレーボールコートの 4 面だけでした。愛好者が日曜になると朝から日が暮れるまで、ひたすらボールを追いかけていたものです。あれから 30 年、コートもミラージュ、河川敷、桃山、ドームと澤﨑市長を始め多くの方々のご理解とご支援により、近隣市町村に誇れる素晴らしい施設整備がなされました。

ここに、改めて関係者各位に深く感謝申し上げます。

さて、私共の 30 年間の歩みはと言いますと戦績もさることながら、何と言っても会員の和と全員がテニスを楽しんでいると言うことに尽きると言えましょう。協会を支えている各クラブは、その楽しさを競うかのように特色をもって会員を惹き付けています。若者のクラブあり、中高年のクラブあり、企業のクラブも数多く有りで、まさしく老若男女幅広い会員構成がそれを物語っていると言えましょう。また、13 年間も続けてきた、小学校 3 年生以上を対象としているジュニアテニススクールの教え子たちも、今はそれぞれの場所でテニスを楽しんでその輪を広げてくれています。

そして、節目節目には神和住選手や柳選手、今回の 30 周年には浅越選手を迎えての素晴らしい式典も開催できました。また、スクールのコーチとしては、テレビでお馴染みの辻野選手に、度々おいでいただいて魚津にはすっかりなじんでいただきました。

特筆すべきは、青梅市や加賀市のテニス協会との素晴らしい交流です。今年で、もう６年目を迎えますが、テニスを通じてこんな素晴らしい出会いが有るとは考えもしませんでした。

テニス協会 30 周年の歩みは、会員一人一人の人生の歩みです。『楽しいテニス』をモットーに素晴らしいコートで『汗と共に仕事の苦労・人生の悩みを流して、爽快な気分・健康、明日への限りない意欲を獲ること、大袈裟に言うならばコートから人生を創って行く』それが、多くの会員の気持ちだと思います。

私たち仲間は、これからもテニスを愛し、仲間を愛し、郷土を愛し素晴らしい人生を創り上げましょう。

「お祝いのことば」

魚津市長　澤﨑　義敬

このたび、魚津市テニス協会が設立30周年という節目の年を迎えられ、ここに記念誌を発刊されるはこびとなりましたことは、誠に慶ばしく心からお祝いを申し上げます。

昭和51年に魚津市テニス協会を発足されて以来30年間にわたり、市民のスポーツの発展のため尽くされた先輩諸氏と会員各位の並々ならぬご尽力に、深く敬意の念を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

ご承知のとおり、市民のスポーツに対する関心は大変高いものがあり、日常生活の中でスポーツに親しむ人々が増えていますことは大変喜ばしい限りであります。魚津市におきましても、市民が興味や体力に応じていつでもどこでも気軽にスポーツを楽しみ、生涯にわたってスポーツに親しむことができる生涯スポーツの普及に努めているところであります。

様々な年齢の人が関心や興味に応じて気軽に参加できる、地域を主体としたスポーツの振興は、「生涯スポーツ」の普及とともに、生き甲斐のある生活と活力ある社会づくりにとって大きな意義があると考えます。

このような中で、テニス協会におかれましては、協会内の競技力向上に留まらず、一般市民やジュニア向けの「ジュニアテニススクール」、「サマーナイトスクール」、「インドアテニススクール」などを開催され、テニス競技の普及、発展にご努力されておりますことは、誠に心強い限りであります。

どうかこれからも、テニス競技の普及、発展並びに競技を通じての地域振興、市民の健康増進などにご尽力くださるようお願い申し上げます。

終わりに、設立以来30年の長きにわたり献身的な指導・普及を続けてこられた魚津市テニス協会の皆様方に対し、深甚の敬意を表しますとともに、この記念すべき30周年を契機に、今後ますますご発展されますことを心からご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

「お祝いのことば」

財団法人魚津市体育協会
会長　宮野　高司

魚津市テニス協会が 30 年の長きに亘りご活躍され、ここに 30 周年記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

顧みますと、昭和 51 年に協会を設立され、魚津市におけるテニスの振興と技術の向上、普及にご尽力された先輩諸氏のご努力と会員各位の熱意に深く敬意を表しますとともに、魚津市体育協会の財団設立に際し、多大な貢献をいただいたことを深く感謝申し上げます。

今日、実に数多くのスポーツがたくさんの方々に楽しまれていますが、中でもテニスは小学生から高齢者に至るまで幅広い年齢層の方々に愛好され、生涯スポーツの振興に大きく寄与されております。将来の更なる向上発展にむけて、今日の隆盛に甘んずることなく、貴協会過去の尊い歴史を振り返って、心を新たにより一層の精進と努力を重ねていただきたいと存じます。

テニス関係者の長年の念願であった、天候に左右されることなく年中利用のできる桃山屋内グラウンドの完成により、今後より一層の競技力向上とスポーツ振興、健康増進に努めていただくとともに、当協会が指定管理者を受託し管理運営いたしております、魚津桃山運動公園、魚津テクノスポーツドーム、魚津市総合体育館を大いにご利用していただきたいと存じます。

今後のスポーツは、生活の余暇を利用するスポーツから、スポーツが生活自体の一部であると言う形態に進んでいくと思われます。この時、貴協会が果たすべき役割は今以上に重要であり、又、われわれも市民も絶大の期待を寄せるものであります。

終わりにあたり、魚津市テニス協会が記念すべき 30 周年の実績を基盤に、益々の充実ご発展ご活躍されますことをご祈念申し上げ、発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。

「お祝いのことば」

青梅市テニス協会
会長　旭　　輝久

魚津市テニス協会の皆さん、創立 30 周年おめでとうございます。

魚津の皆さんとの出会いは、青梅テニス協会からの一方的なお願いを、広い心をお持ちのみなさんが、快く承諾して始まりました。聞くところによりますと、青梅市と近郊の青海市を間違えて、返事をしてしまい、戸惑ったと聞いています。(まさか東京の青梅市とは思わなかったでしょうね)

しかし、初めての魚津市テニス協会の皆さんとの交流会は、本当に楽しく、また魚のおいしかったこと。翌年には遠く青梅まで来ていただき、魚津での思い出の延長を楽しむこととなりましたが、お互いに、テニスの楽しさと、人と人との出会いのすばらしさを十分に堪能いたしましたね。

山中町を交えた、白馬での交流会と和が広がり、幹事の人は大変でしょうが、参加者全員が、テニスだけではなく、アルコールでの対抗戦（？）と、交流会はまた一段とグレードアップとなり、山中町での交流会、また今年は魚津市での交流会と、年々楽しさが倍増されていきました。我々、青梅テニス人は、宴会でのパワーに遅れてはいけないとがんばってはいますが、毎年、レベルアップされる、魚津・山中の皆さんの体力には到底対抗できるものではありません。せめてテニスだけでもとがんばっていますが、対抗戦ではいつも 3 位入賞（？）ですが、来年は青梅での開催となりますので、何とかテニスも宴会でも対等に勝負できるように、技術力をアップしておきたいと思いますので、魚津の皆さん、期待していてください。

すばらしい皆さんとの出会いはこれからも大切にしていきたいと思います。

いつまでも、テニスのプレーと、楽しい時間を共有していきましょう。

「交流戦について」

山中温泉テニスクラブ
会長　今津和喜夫

魚津テニス協会 30 周年、まことにおめでとうございます。
貴テニス協会と旧山中町テニス協会とのホームページ管理人同士のひょんなやりとりから始まった交流戦、はやいもので今年で 5 回を数えるまでになりました。3 年目からは魚津さんとすでに交流戦をスタートされていた青梅さんとの会にごいっしょさせていただくという、今の形になりました。

初めての交流戦に参加させていただき、新たなるテニスの楽しさの広さを痛感させられました。それまでの旧山中町テニス協会は弱小であった協会の地位向上を得んがために、選手強化と育成による底辺拡大にあけくれ、ともすると勝利に拘った、大会至上主義的であったように思えます。もちろんそれはそれで、夢であった県体優勝を実現し、石川県内での評価を年を増すごとに押し上げ、目標であつた強豪の一角を担うまでになりました。

そのような進歩が今度は追うものが追われる立場と逆転し、守らんがために、いつのまにか殺伐としたテニスの環境に自ら息苦しくおいたように思います。でも交流戦によってもう一度、テニスの交流という楽しさを、目から鱗がとれたがごとくに教えていただきました。

話はラグビーになりますが、大学ラグビー日本一になった関東学院大　春口監督が恩師である日体大の綿井監督に鼻高々に優勝の報告に訪れたときに何ごともなかったような普通の対応しかされず、その時は少しくさったようです。後日、恩師から言われたそうです。ラグビーの日本一は大きな目標ではあるけれど、真の目標である仲間づくりはちゃんとしているだろうなと。春口監督は全身、冷水を浴びたような衝撃をうけ、随分前の恩師の態度を思い出したそうです。

私たちの協会も競技は違えども同じようであったと思います。テニスの強豪となることは、大きな目標であるけど、真の目標は仲間づくりだと、交流戦を通じ身をもって感じました。

まだまだ何かといたらぬ山中温泉テニスクラブですが、テニスを熱く語り、酒を飲み交わし、皆様方と大きなテニスの輪を広げていきたいと思います。今後とも、末永いお付き合いを宜しくお願いしまして交流戦についてとさせていただきます。